平成２７年２月２日　　No. ８７

己を知る

副校長　　諏訪部　浩志

２月。１年で最も寒い時期を迎えました。インフルエンザの流行も心配です。風邪の予防に心掛け、元気に冬を乗り切ってほしいと思います。

先月１５日～２１日に実施した「書き初め展」では、保護者の皆様に多数ご鑑賞いただき誠にありがとうございました。席書会では、全校児童が練習の成果を発揮すべく緊張した中で書き初めに取り組み、一人一人の子供が自分のもてる力を出し切り、真剣に作品づくりに向き合う体験ができました。

さて、「生きる力 ～知・徳・体のバランスのとれた力～」を培うことが教育課題の一つに挙げられ、各学校が創意工夫をしながら教育活動を展開しています。変化の激しい今を生きていくためには、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育てることが大切であるのですが、併せて、これからの社会を力強く生きていくためには、生き抜こうとする意欲、よりよく生きていこうとする強い意欲も大切です。そのための様々な要素が考えられますが、「自分をよく知る」ことも大切な要素の一つであると考えます。自分の得手、不得手をよく知ること、目の前に現れるいろいろな出来事をよい機会ととらえ、体験を重ねることです。取り組む前にできないと自分で決めつけたり、一度の失敗で逃げたりすることなく、意欲的に挑戦する強い意欲を培いたいものです。

学校や家庭、そして、地域においてもその機会はたくさん訪れます。様々な体験を重ねることにより、自分の中に新しい発見ができると、そこから次への新しい意欲がわいてきます。四谷の街は、多くの皆様のご協力により、多様な地域行事が企画運営され、子供たちに体験の場を提供してくださっています。今月２１日（土）には、本塩町地域交流館において「第１７回 天童蕎麦打ち会」が開催されます。四谷と山形県天童市は、千布小学校との交歓行事をはじめ、これまで長く交流を続けてきた経緯があります。地域のイベントには積極的に参加し、多くの方々と触れ合いながら、自分の新たな可能性を見付けてみましょう。

新しい自分を見付けるのは子供たちだけのことではありません。子供たちと一緒に私たち大人も新しい自分を見付けたいものです。

校内研究について

研究主任

本年度は、「よりよく問題を解決する力の伸長～体験活動と表現活動の充実～」をテーマに、生活科と総合的な学習の時間の研究を進めてまいりました。この研究のねらいは、子供たちが今をたくましく生き抜き、未来を切り拓いていくことができるようにすることです。

もし、価値観が多様化した現代社会の中で、子供が高い壁にぶつかったとき、どうしたら乗り越えられるのでしょうか。情報が氾濫した世の中において迷ったときは、どう判断したら良いのでしょうか。

このような問題をよりよく解決する力を伸ばすために、授業実践を通して研究を進めてきました。

授業で扱う課題は、学校や地域の身近なものだけでなく、歴史や文化、福祉、経済、環境、国際理解など、多岐にわたっています。これらの課題は、すぐに答えが出るものではありません。四谷小では、これらの課題の解決に向けて、繰り返し探求活動を行いました。地域へ調査活動に出かけたり、お店や家の方、役所や地域で活動している方々から話を聞いたりする機会があり、多くの方々にご協力いただきました。

今後とも、ご家庭や地域の皆様にご協力いただきながら、子供たちのためになる授業を実践、研究していきたいと思います。

相談室のご紹介

こんにちは、スクールカウンセラーです。

ご自宅でお子様の様子がいつもと違っていたり、登校を渋ったり、ご家庭での育児など何かご心配なことがございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

月・火・木曜日が相談日です。予約の際には、学校までお電話ください。

素直で優しい子供たち

３年２組 担任

３年２組の子供たちは、「素直で優しい子供」です。友達同士で励まし合ったり、助け合ったりということが自然にできます。

２学期の大縄集会でも、大縄になかなか入れない子にみんなが声援を送り、入れたときには大きな歓声が上がりました。また、国語の音読で困っている子がいると、隣の子がそっと読み方を教えてくれます。

３学期になり、生き物係の提案でグッピーを飼い始めました。水槽の中を元気に泳ぐグッピーを子供たちは「かわいいね」と言って、休み時間ごとに優しく見守っています。今は係が中心になって世話をしていますが、そのうちに「クラスのグッピー」という意識が出てきて、みんなで大切にしていけるといいなとひそかに期待しています。

もうすぐ４年生。素直で優しい心をこれからも大切にして、成長し続けて欲しいと思います。

一歩

５年３組 担任

先日、四谷子ども園の年長さんを招待して、交流給食会を行いました。目的は年長さんたちに学校や学校の給食の楽しさを味わってもらうことです。

給食会の一週間前に、顔合わせを行いました。戸惑いながらも、幼い園児たちに、わかりやすく説明したり優しく接したりするなど、ほほえましい光景が見られました。子供たちからは「少しずつ話をしてくれるようになったのがわかって、うれしかった」や「小さい子と話すのは難しかった」といった感想が挙がりました。また、「次は私たちの名前をわかってもらえるように、名前シールを貼っていったらどうか」といったアイディアを出したり、「○○ちゃんの好きなキャラクターを描けるのはぼくだけだから」と放課後も残ってランチョンマット作りに取り組んだりしていました。

給食会当日、園児も５年３組の子供たちも、心から楽しんでいる様子でした。これまで、年下の子を気遣い、もっと良くできないかとアイディアを出し、放課後も一所懸命に働き、５年３組は、確実に最高学年への一歩を踏み出しました。

６年生を送る会

代表委員会 担当

２月２７日の３校時に６年生を送る会を行います。全校児童が体育館に集まり、今までお世話になった６年生に感謝の気持ちを表し、卒業を祝う会です。

今年も各学年から６年生への出し物があります。６年生への感謝、激励の気持ちを込めて、一生懸命に用意しているところです。６年生もきっと喜んでくれると思います。

会の最後には、校旗の引き継ぎを行います。最高学年として下学年のお手本になるという自覚や責任、そして四谷小学校の伝統を、校旗とともに６年生から５年生が引き継ぎます。

全校で６年生の卒業を祝い、最高学年としての態度を５年生に引き継ぐ大切な行事であることを、子供たちにも感じてほしいと思います。